



日本＝牛枝肉から背割り前に脊髄の吸引除去、枝肉洗浄2回



22

表-2 米国におけるBSE規制の経済的影响の推定額

(単位:100万ドル)

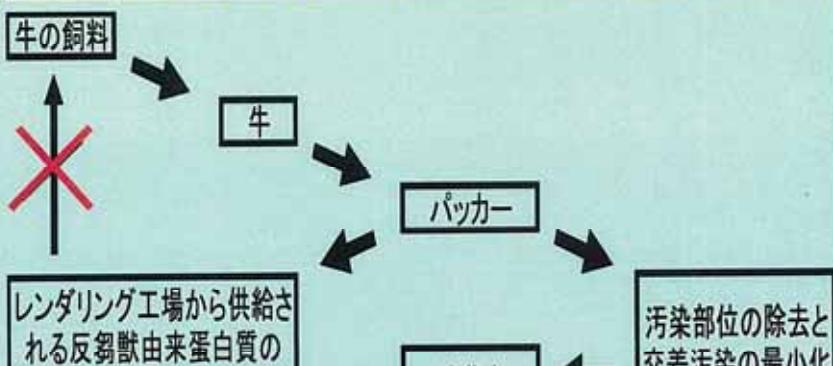
SRMの除去費用	100
30ヶ月以上牛の歯列検査に伴う費用	17~59
ヘタリ牛の除去費用	50
部分的機械回収肉の禁止に伴う費用	15
合計	182~224

資料:American meat Instituteの資料からカーギル社が作成。

23

9. 基本的BSE防止策とその問題点

図-3 米国における科学的BSE防止策



資料:カーギル社畜産本部資料より作成。

24

米国におけるBSE防止策の基本：
1996年から開始された「レンダリング工場から供給
される**反芻獸由来蛋白質の牛飼料への利用禁止**」。

パッカーから排出される特定危険部位(SRM)は
レンダリング工場に回され、肉骨粉などに加工。

この「**SRMを含む牛由来肉骨粉**」を牛飼料として利
用することを禁止することが米国のBSE対策の基本。

しかし、牛や豚や鶏を同時飼養する農場段階での
「牛への交差汚染の危険性」がある。

25

日本ではSRMはレンダリング工場とは別の施設
で焼却されて、飼料はもちろん肥料にも利用され
ていない。

また、レンダリング工場で生産される「牛由来の
一般的肉骨粉」も焼却され、飼料にも肥料にも利
用されていない。

日本では「**牛由来肉骨粉は完全に焼却**」されて
いる。

26



表-4 米国のBSE予防対策手順書

入荷前	と畜前	と畜	枝肉冷却	枝肉解体	レンダリング
FDAの反芻獸由来飼料禁止	ヘタリ牛不買政策	空気注入と畜禁止	30ヶ月以上牛の枝肉の分離	30ヶ月以上牛の枝肉の分離	飼料禁止表示
飼料の宣誓供述書	と畜前検査政策	歯列検査		SRM管理プログラム(脊柱除去)	可食と不可食(SRM)の分離
フィードロットでの検査	歩行困難牛政策	30ヶ月以上牛の分離		機械的回収肉管理プログラム	レンダリング製品販売指示書
		SRM管理プログラム(扁桃腺、脳精髄、頭蓋、小腸の除去)	20~30ヶ月齢牛の脊柱の機械的回収肉の処理?		レンダリング製品輸送車の清掃手順

資料:カーギル社畜産本部資料より作成。

米国では月齢の不明牛が大半である
しかし、日本への輸出再開を目指し、急速に改善中

歯列による月齢判断(1人で判定、100%確実か)

30ヶ月以下牛と以上牛の2分割

30ヶ月以上牛は数は非常に少ないものの、その肉は
米国産牛肉の輸入を再開したカナダ、メキシコにさえ
輸出できない、

30ヶ月以上の枝肉は厳密に管理

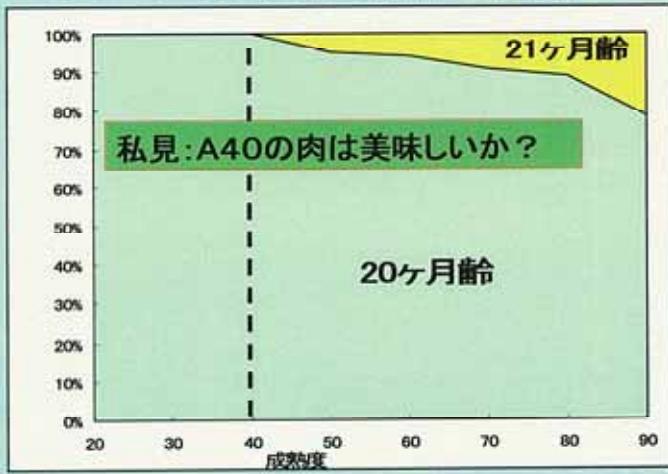
29

アメリカにおける30ヶ月齢以上牛の歯列による選別、
1人で判定





図-6 成熟度と月齢の関係



32

10. エクセル社フォートモーガン工場

2シフトで4,500頭をと畜・解体・加工。
(日本最大のと畜場=東京都:芝浦=360頭)

第1シフトは朝5時半から午後2時半まで、

第2シフトは午後2時半から夜11時まで。

その後、夜中に工場内の清掃。

全従業員は約2,000人である。

33

11. スイフト社グレリー工場

従業員が1,400人であり、1日のと畜頭数は3,000頭

と畜作業は1シフトであるが、加工作業は2シフト

コンシューマー・パックなど高付加価値製品の生産

日本が輸入を中断するまでは量販店がすぐにスライスできるような形態で輸出していた

34

IV 日米間比較

	米国（日本の輸入対象施設）	日本
繁殖牛経営	1戸当たり繁殖牛は平均42頭 放牧が主体	1戸当たり繁殖牛は平均7.8頭 舍飼いが主体
育成牛経営	育成と放牧を行う経営がある	育成経営非常に少ない
フィードロット	1牧場で3.2万頭以上飼養している牧場の数は全米の0.1%であるが、肥育牛頭数は42%	1牧場の平均頭数は97頭、5,000頭以上飼養牧場は非常に少ない
と畜	ピッシングせず	ピッシングあり
出生証明付き牛	非常に少ないが、増加中	全頭証明付き
と畜対象	20ヶ月以下が90%の去勢牛と未経産牛 老廃牛は別施設で処理	20ヶ月以下は約15%、老廃牛も取り扱う
30ヶ月齢以上牛	歯列で区分する。 頭数は0.5%未満。別処理	区別せず
BSE検査	歩行困難牛が対象 全頭の1%未満	現在は全頭で実施

35

	米国（日本の輸入対象施設）	日本
肥育牛の価格とBSE検査費用の重み	牛1頭価格は約12万円 検査費用は3千円	牛1頭価格は約40～100万円 検査費用は3千円
パッカー	民間企業	と畜部門は公設が大半
	寡占化が進み、4社のと畜シェアは83%	零細施設が多い。 再編統合が遅れている。
	1日当たりと畜頭数が4,500頭の施設もある	1日当たりと畜頭数は最大で約360頭
SRM除去	全頭対象は扁桃腺と小腸、30ヶ月齢以上牛では脊髄、脳、脊柱など、しかし、大手パッカーでは全頭から除去	全頭を対象に脊髄、脳、脊柱など
脊髄除去	背割り後、手と吸引機で除去	背割り前に吸引機で除去
SRMの処理	一般廃棄物と混合	特別焼却
牛由来の肉骨粉	豚と鶏には給与可能 アジアなどへ輸出	焼却処理

資料：聞き取り調査と農林水産省資料より作成。

36

米国産牛肉の輸入再開の条件(私見)

- ・フィードバン(飼料規制)の遵守
- ・20ヶ月齢以下の証明
- ・20ヶ月以上牛との交差汚染防止の確認
- ・大手パッカーからの購入の証明
- ・零細パッカーからの製品混入防止の確認
- ・特定危険部位の完全除去の確認
- ・上記の牛肉の輸入条件を内臓にも適用

37

▽ カナダの牛肉産業

1. 繁殖牛経営



